【事業名】三井楽ふるさと景観の椿林・円畑・スケアン再生で地産品ブランド化
長崎県五島市【団体名】五島里海里山協議会

令和４年度　生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

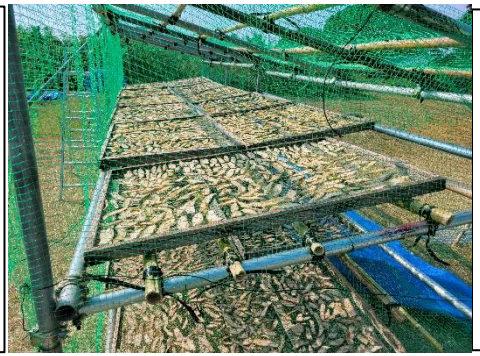
事業の背景・目的

地域の特性を活かした「円畑（まるはた）」で農作物をつくり、そのまわりに防風・椿油採取のため「椿林」を育て、台地を降りた白砂の海岸の合間には、溶岩を積んだ「スケアン(石干見)」で海の幸を得る農業、漁業が盛んな地域だったが、過疎高齢化や広域合併による人口流出などで、円畑、椿林、スケアンの多くが放棄され、畑地外来種の侵入、激増したシカとイノシシによる円畑石垣崩壊など豊かな里地里海をもたらしていた古くからの人と自然の共存で育まれた豊かな生物多様性が危機に瀕している。過去からの地域知を活かし、放棄地の再生を図ることを永続的に実現するために地産品ブランドを生み出して古里を再生する。

事業の内容

事業①　**円畑・椿林関連生産事業拡大**

三井楽町の農業・漁業の地域知でもある「円畑」「椿林」「スケアン(石干見）」が崩壊し、古来よりの畑地などが荒廃し始めている。過去から盛んに生産されてきたサツマイモ畑を再生し、「カンコロ」の製造を行って、五島特産のカンコロ餅による「円畑ブランド」の確立を図る。



事業②　**スケアン再生により豊かな海体験に活用**

６０年前まで活躍していたスケアン（石干見漁）を復活させたが、漁場としては往時の収穫は見込めない。スケアン漁体験による潮の干満、周囲の湧水、伝馬船体験なども含めて自然観光体験メニューで迎える準備を進めている。

事業③　**円畑ブランド確立によるカンコロ餅や椿油の販路拡大で荒廃地の永続活用**

サツマイモの生産からかんころ餅材料を製造し、独自の円畑ブランドのおいしい「カンコロ餅」を製造販売。このことにより荒廃地の再生や石垣保存なども行い、下流の海の豊かさを取り戻すことにもつなげる。

得られた成果

円畑における芋の生産量は３倍に拡大。２段活用の組み立て式カンコロ棚の試作も完成し、カンコロ餅の製造も、食用椿油を入れるなど独自の配合による製品となり売れ行きは好調で、このままでも生産量拡大は可能となった。また、荒廃地の周囲の石垣の管理や防風用の椿の植栽なども行って、古来より作られてきた円畑を再生し、守り、かつ円畑ブランドとして椿油やカンコロ餅を販売していく準備ができてきている。

また、６０年ぶりに復元したスケアン漁も、現地の湧水、海水の干満、伝馬船の活用、海藻の試験的植栽などを行って、自然活用体験メニューの充実を図るための見込みができてきており、来年度から本格的な実証実験をおこなう。